

京三中・山城高同窓会 会誌

双ヶ丘

向日葵

紗知子書

第2号 2009/08/27

目次

巻頭言

同窓会を論ず

幻の金メダル

母校考

尾崎ブラザーズ

映画部OB会機関紙

国体回想記

源氏夢幻

プラスバンドで音楽三昧

会員からの便り

フォトコンテスト

各期から

表紙 作者 一年十組 若松沙知子

一学期の授業で学修した虞世南の孔子廟碑という
古典の書風で書きました。

言 頭 卷

若い人へ

三中三十一回 平井 邦男

現在、五体満足で生活できることに、森羅万象にこの上なく感謝する。古い話だが私たちの同年輩は二度とない歴史に残る学生時代を過ごした。昭和十八年度の文化系の徴兵延期の停止、私は大学本科二年在学中で東京の下宿を出、故郷京都から十二月一日に京都の十六師団の通信隊に入隊した。新兵として毎晩殴られ教育され、終了後第三航空軍の辞令を受け、十九年の十一月に日本を離れ、到着するまでに玄界灘で潜水艦の攻撃を受けたが、何とか無事逃れることができ、二十年一月にシンガポールに上陸、当時の仏印に進駐した。その間潜水艦に追いかけられ、玄界灘で船団がバラバラに解体され、当時の台湾の高雄に一隻で逃避した。その間風呂にも入らずシラミに悩まされた。当時はそれが普通であった。そのまま又出港、敵潜水艦の巢である海南島付近の海上に爆雷投下して、無事通過し、日本を出て約三ヶ月後、シンガポールに上陸した。終戦になり二十一年六月に帰還復学、二十二年九月に卒業した。そして今は平和でお陰様で長生きさせてもらった。我々はこの様な時代の学生生活を過ごしたことを、平和になれきった現在の学生に是非伝え、決して風化させてはならないと思っている。

同窓会を論ず

5回 高林藤樹(副会長)

PTAは昭和二十三年の学制改革とともに生まれ、学校を支える柱として運営の一端を担って来た。PとTは車の両輪にたとえられ、互いに手に手を携えて歩んだのである。幾多の先人が涙ぐましい努力をされ、その積み重ねが今日をあらしめているのだ。

しかし、私は同窓会と共にPTAも見直しが必要であると言いたい。同窓会はPでもなければTでもない。同窓会をなんと呼ぶか知らないが、卒業生だから仮にSとしてもよからう。PとTとSの三者が一つになって三位一体を実現するのである。あたかも校章は三角形でまさに三位一体である。

さて、山城高校の前身である京三中は、明治四十一年に開校し、同窓会は大正三年に発足した。しかし、当時は学校長が同窓会長を兼ねていて、同窓会はお仕着せの御用組合の感があつた。その頃の風潮だといえればそれまでであるが、校長が同窓会の会長を勤めるといふ習慣は、実に昭和五十一年まで続くのである。昭和五十一年十一月に組織が改編され、「京三中・山城高同窓会」が誕生(改称)した。会長も会員中より選出することとなり、PでもないTでもない、会員の会長が、はじめて生まれたのである。

初めてというのは厳密には間違いで、昭和三十三年に京三中間窓会と山城高同窓会が合併して「京三中・山城高同窓会」が生まれた時、会長は五中(京三中の改称前)の第一期卒業生岸田幸雄氏(元兵庫県知事)

が就任された。しかし、昭和四十四年に同窓会は双陵同窓会と改称して三中部会・山城部会と二部制になり、事実上分裂した。会員による会長も岸田氏一代でなくなり、また校長に逆戻りした。

それから八年経て、同窓会は又合併して、名称も「京三中・山城高同窓会」に戻った。今度は本当に一体となって、会員から選ばれた会長が生まれた。そして百年という大きな節目を乗り越え、今日、安泰に運営されている。

次に会報も亦盛衰があつた。

●第一期(大正三年～昭和十八年、五十二号まで)

●第二期(昭和三十七年～昭和四十三年、年一回)

百年間の中の四十年である。あとの六十年は会報はなかったのである。

このようにとぎれとぎれでは歴史は成り立たない。

さて、学校の運営はPとTで足りるかと問えば、誰も「是」と答えないであろう。PとTをよく車の両輪に例えるが、車は両輪があれば走るか？ 否。車は車軸があつて初めて成り立ち、又、走ることが出来るのである。車軸とは何か、それが同窓会なのだ。同窓会こそが今日まで歴史を紡いで来たのである。

今、後輩達は、先輩が打ち樹てた栄光を眩しく見上げるだけでなく、自らの誇りや財産として子や孫に自慢し、更に周りにも胸を張る。この喜びは同窓会のものだ。勿論PやTの御恩あつてのことではあるが、当事者は生徒である。つまり同窓会なのだ。

このように大事な同窓会も、年数の経過につれて、地理的・世代的に

疎らになり兼ねない。細くなる絆を太くつなぎ止めるのが「会報」である。会合を開いても、病気の友や遠隔地に住む友は参加しにくい。そんな時、「会報」を読むことにより、一体となれるのである。

会員は知る権利があり、本部は知らせる義務があるというが、この権利・義務の関係は、会報を通じてスムーズにゆくのである。従つて会報は会の活力のバロメーターとも言える。

さて、同窓会の意義は何か。会則によれば同窓会の目的は会員相互の親睦と母校の後援にあるとされている。勿論そのとおりだが、会則の文言に現れない真の意義はそれだけではなさそうだ。先祖から受け継ぎ伝承してきた歴史や文化というものは、親を通して我が身に血となつて流れている。それが家族だ。

学校においてはそれが同窓会である。

一本の柱は、それだけではただ一本の柱で終りだが、二本になれば門となり人が通る。しかし、人が通るだけでなにも残らない。それに柱や門は支えがなければ倒れる。不安定である。ところが三本になったらどうだろう。柱は安定するし、屋根を葺くこともできる。建造物となる。人が集まる。同窓会はこれだ。

PやTだけでなく、S（シニア、先輩、卒業生）こそが伝統や歴史を紡いで、次の世代へバトンをわたしてゆくのである。これで三位一体が成就するのである。

会報をみんなで育てよう。会報をみんなに広めよう。会報を尊べ。会報を愛せよ。会報こそは会員の魂の宿るところである。

幻の金メダル

三十三回 内藤 薫男(故)

一九四八年ロンドン・オリンピック、第二次世界大戦直後に開催されたこの大会は、日・独・伊、枢軸三ヶ



二 段 跳 び 競 技 世 界 最 高 記 録
15 米 62 1948 年
長 谷 川 敬 三 選 手 (日 本) 四 年 次 第 一 位 取 得

水泳日本の華
やかさの影にか
くれてあまり話
題にも
上がら
なかつ
たが、
彼と同
じ運命
を辿つ
た名選

国は参加を許されなかった。もし日本が参加して居れば、当然金メダルに輝いたであろう選手がいた。恐らく皆さんは「フジヤマのトビウオ」古橋広之進選手のことを思い出されると思う。彼の活躍は敗戦にうち拉がれた国民を如何に力づけた事か、しかし、彼は金メダルを手にする事はなかった。



長谷川敬三選手(日本)四年次第一位取得

手がもう一人いた。その名選手こそ我らの同窓の長谷川敬三君である。ロンドンオリンピックの三段跳び決勝と日をおなじくして行われた日本選手権陸上競技大会において、彼はオリンピックの優勝記録を上回る記録を出していたのだ。オリンピックの優勝記録は一五m四四、彼の記録は一五m六三。当然金メダルに相当する大記録である。織田幹雄、南部忠平、田島直人の三選手につづき、三段跳びの四連覇が達成されていた筈だった。

長谷川敬三君が小学校六年生のとき、朝日新聞が選んだ学力・体力とも優秀な日本一の健康優良児に指名されたことはご存知のことと思う。三中入学以来陸上競技部に籍を置き、陸上競技に理解の深い国府田先生や、短距離の名ランナー岩崎重雄先輩らに恵まれ、順調に記録を伸ばし、彼の行くところ敵なしの感があった。彼の脳裡には輝かしい跳躍日本の三段跳の伝統を継ぐのは自分しかない。オリンピック大競技場のメインポールに翻る日章旗を夢に描いていたと思われる。

しかし彼の行く手は決して順調ではなかった。狭い運動場は野球部やラグビー部に占領されて居り、練習も隣の花園中学校の運動場を借りる有様だった。その上、三年生の時、校内運動会の走幅跳では六メートル

五十、当時の中学三年生としては驚異的な記録を出したものの、踵を骨折するという大ハプニングに見舞われてしまう。運動場に設けられた臨時の砂場は、彼にとっては小さすぎ、砂場の向い側の縁に着地してしまっただけだった。彼の不運はさらに続く。拡大するばかりの支那事変は、昭和十五年、皇紀二千六百年記念として予定されていた東京オリンピックを、非常時を理由に返上に追いやってしまった。これはもう一人の同窓の名選手、阿座上新吾君の夢をも奪ってしまった。東京オリンピックに照準を合わせていた彼の無念さは、砂防協会編の阿座上新吾追悼文集「なんじやらはい」の中に切々と述べられている。

踵の骨を完治し、彼の活躍は復活する。しかし、彼を取り巻く環境は

悪化するばかりで、記録も予想されただけ伸びない。三中を卒業すると、彼は織田・南部の大先輩を慕って、早稲田大学に進学する。しかし、早稲田時代の彼は一つの壁にぶつかっていたのではなからうか、得意とする三段跳に於いても、当時の第一流の目安である十五メートルは超えられなかった。

戦争中の彼の消息は知らない。しかし、やがて朝日新聞スポーツ欄に彼の健筆が揮われることになる。それと共に競技を再開する。オリンピックも開かれる事になったが出場は許されていない。彼は無念さと悔しさを日本陸上選手権大会の三段跳びにぶつけた。そして終にやった。オリンピックの優勝記録を破ったのだ。しかし、金メダルは幻でしかない。彼の眼には遙かロンドンの空に

翻る日章旗が浮かんでいたことだろう。「食糧不足の中にあっても、満員の国電の中で爪先立ちや屈伸運動でトレーニングを怠らなかった」と記された新聞記事を思い出す。次のヘルシンキ大会では既に彼の時代は終わっていた。予選通過すらできなかった。

五月九日京都新聞紙上に彼の死去を報ずる記事に目が止まった。「二九四八年三段跳で出した15m63はその年の世界ランキング一位であった」と記されていた。合掌

(本稿は中西雄太郎氏のご了解を得て「京三中三十一期生卒業六十周年記念文集」より転載させて頂きました。)

母校考

9回 伊藤 淳平

以下は母校を肴にしている座談です。まず「母校史」について。

先年、「母校」の合同「創立百周年」のお祝い行事がありました。タイトルには「三中・山城合同」、つまり「二つ」の校名が並んでましたが、これは「？」です。正しくは「五中・三中・山城合同」としなければなりません。

明治40年(1907)府立第五中等学校創立、選抜試験は一中と共通で「東洞院」以西の合格者が五中に入學したと聞いています。その10年後の制度改正で第三中等学校へ校名変更、戦後になって新制・京都府立山城高等学校がスタートしました。これが母校「三代」の歴史です。ところが「三中・山城」総合名簿録からも「五中」の名前が消えています。何故、「五中」が

排除されたのか理由はわかりません。

不思議に思うのですが、五中時代(10年)を「省略」しますと母校史は100年には届きません。もし、三中創立年(校名変更)を五中創立年へ「バックデイト」させて五中時代を三中に「包含」したと言うことならば無茶も甚だしい。そんな乱暴な理屈は絶対成立しません。五も三も同じ「京都府立中学」、校名となる数字ルビが五から三へ変わったただけだと言う主張(そんな主張があったかどうかは存じません。もしもの話です)も軽率の極みです。そもそも「数字が校名」の時代だったのですから大違いでしょう。一(中)と三(中)が一緒とは誰も考えなかったでしょうや。五中時代はわずか十年間でしたが短期間であればこそ「創世記神話」があったと思います。「ものの始まり」や「創成期」は歴史の中でも最も重々しく語られ、扱うのが普通です。わが国も昔、「神武天皇」

が登場していたではありませんか。母校史の“神代”の話やや扱いが粗雑ではないでしょうか。もう少し、大事に扱ってはと考えている次第です。

今更こんな話を蒸し返す“訳”ですが、私の身内（兄弟・子供・一族親類）で母校卒業生が10名おりますが大叔父2名（伊藤為次郎、泰造）がレッキとした「京都府立第五中学校」卒業生だったからです。兩名とも、既に鬼籍に入りましたが、学校の歴史と一緒に“鬼籍”に入られてしまう理由はありません。“三中・山城史観”のご都合だけで歴史的事実が修正処理されては“五中OBの霊”は浮かばれません。そもそも“第五中学の霊”が宙をさまよい成仏も出来ないではないですか。

以上、ことほど左様に・・・の話ですが、三中・山城の「今・ここ・私」のご都合だけで歴史改ざん？をそのまま・・・なんて、名門らしからぬ非常識・理不尽と思います。一度、皆さんで議論さ

れてはと思いますが・・・一杯やりながらでも。

母校・新旧の歴史“連続性”についてです。伝統100年が建前上、“ずーっと繋がってる”と考えていることについてですが大げさな話ではありません。チョット道筋の整理をしたと思うだけの話です。

「三中・山城」「二中・洛北」の新旧ワンセット観。この“二組”に限り新旧がくっついてると認知されました。昔、一中と三中は“選抜エリート男子”を集めた旧制中学の雄でした（無論、教員もエリート集団でした）。その誇り高い京都府立第三（二）中学校は米進駐軍（懐かしい！）の教育改革（義務教育の嵩上げ）のあおりで消滅し、その身代りに新制・山城高等学校が生まれました、とするのは全くの“デマ・マチャイ”です（誰しも、おわかりでしょうが）。新制と旧制はよって立つ基本ベースが違います。

どちらがうのか。昔の中学制度はリンク別にタテ方向に並べられてました。“松”を頂点にして以下、竹・梅・・・の様に下位グループが連なりました。うな井とおおまか一緒です。三中はうな井で云えば“松”ランクでした。

新制の分類はかくヒエラルキー型を廃して、“お好み定食”型になりました。普通科、商業科、工業科、芸術コースなど、“お好み”別のMEN UをA定食、B定食、C定食・・・などと皿分けしました。新制高校は民主主義・平等主義思想を背景に“男女共学・学区制・能力平準化”がベース・コンセプトになってます。したがって、“ランク”別の旧制と“お好み”定食型の新制と「新旧両制度の比較」は高等数学を駆使してもできません。

山城はうな井ランクで何番くらいと問われても答えがありません。

要するに、改革方針の民主主義・平等主義思想という二枚包丁で新旧制度

を「スッパリと切断」した訳ですから「旧制」と「新制」とは一切繋がってないし、繋がってはいけナイのです。三中・山城は、かく次第で本質的にコンテキスト上の共通点（関係）・連続性は無いのです。にも拘らず、ボンヤリと「繋がっている」ように見えるのは山城が三中の「跡地と校舎」に入り込んだからです。名家のお屋敷跡に血統上は何の関係もない住人が住み着いたようなもんです（判りやすく云えば）。だから、両者（の伝統や歴史）が繋がっていると考えるのは単純な「錯覚」です。旧制中学に変わって、金太郎飴的にどこを切っても同じ断面が見える「似たもの高校」が沢山生まれましたが、山城もそのワンオブゼムに過ぎなかったのです、ホントウは。山城・洛北二校にだけ「伝統継続・フィクション」が生まれた理由は極めて単純です。

旧制の「学舎と教員」がほぼその

ままセットで「現位置」に継承されたからです。特に教師の感覚では今までと同じ場所で同じ教師をする。「制度」が替わり、学校名が変わっても、場所不変という環境下では「変化」の実感がなかったのでしょうか。新制度（山城）の中に旧制（三中）の魂魄の火を燃やす！。教師の胸の内に「和魂洋才」に類似した伝統的反骨精神が動いた可能性もあります（これも「旧制度」的なのですが）。（想像ですが）かくしだいで教師も生徒も三中の伝統「直結・一貫通貫」なる錯覚覚めぬままに、二人三脚で「フィクション」に実像を注ぐ作業に励みました。その練磨・努力の甲斐あり、一時期、山城高等学校の空気に「旧制・第三中学校」の「気迫と血液」が強く躍動していた事は事実です。私ですら（山城9回卒）、その「気迫や魂魄」の息吹を自己流に勝手解釈し、日々仲間・相集って自由・

進取の三中「精神？」を謳歌しておりました。あいにく、肝心の「血液（勉学修養）」の方が「血液型不適合」で私には「輸血」されぬままでしたが……。やがて、教師が去り、校舎も耐用年数超過で安普請に建て替えられ、なす崩し的に「エリート」の面影と実態が消えました。「母校・山城」が「エリートの魂魄と血」の影響下にあった期間はせいぜい昭和42〜3年頃までではなかったでしょうか。以後、母校は順調？に急速に本来の姿、「定食屋のタダの学校」に同調して行きました（トホホの話ですが）。

さて、母校史の「断絶か連続か」の答えですが。「旧制中学校」と「新制高等学校」はナニモ繋がってません。しかし、「三中と山城」は魂魄が繋がっていると私は思います。

さて、「継続論」を補元する上で「私の頃の山城」の話をつけ加えておきたいと思います。

ひと昔前の山城には（旧制）第三

中学校の気迫と血液”を濃厚に意識する空気が漂っていたことは先に述べたとおりです。私のような“ハズレ学生”にはやや、荷が重すぎたくらいです。今“その時代”を振り返りますと、現場の“過度期的混乱”が落ち着き、いわば“擬似旧制期”とも表現すべき“新指導モデル”が定まった時代ではなかったかと思えます。旧制・新制の双方が良い面を競い合って「足して2で割る」、そんな“黄金期”でした。両制度の双方がよそ行き？の化粧を繕って、手をつないでいそいそと歩く、“道行き”ロマン期でありました。日々の授業は新制「定食」型だったのでしようが、味付けはエリート教師が腕を振った旧制“松の味”でした（多分そうだったのでしょう）。味音痴の私の口にはサッパリ合いませんでしたが・もったいない話でした。“擬似旧制時代”は私の卒業後、せいぜい十年間、S

42〜3年頃までではなかったでしょう。山城の黄金の日々？は20年間前後は続いた事になります。擬似であろうが真性であろうが、エリートの匂いは十分でしたから“秀才”には不足しませんでした。勉強エリートだけが幅を利かせていた訳ではありません。私は今でも母校紹介には同期の「山城新佑君」の名前を遣わせてもらいます。吉田義男氏（阪神タイガース）や釜本邦茂氏（サッカード）をリリーフ材料に付け加えれば、もう完璧です。ほぼ100%、人は「エエ学校やなア」と納得してくれず、何故か。秀才の話とはあんまり人気がないのです。

母校史は「旧制40年」、斯く「擬似旧制時代」が20年、その後、純正？「新制時代」入りして40年。メて百年史を迎えたという事でしようか。

母校史はかく、“三期分割”で読み解く必要があるでしょう。

三中はエリート校でした。キャリア・コースの常連でした。実際、実社会で

その筋の先輩には随分と助けられました。しかし、三中とて全員がそのレベルにあった訳ではありません。しかし、私の評価する三中の凄さは“ハズレ組”の実力・質の高さでした。

私の又従兄弟、伊藤朗（三中34回）、伊藤恒（同36回）はその典型と思つてます。

永年、青山学院初等部長（小学校校長）・宗教部長を務めた兄・朗（あきら）氏は青山の名物教師として東京の教育界で超有名人でした。進取・アイデア・ユーモアなどなど、秀逸です。人望篤く、多数の名譽職と共に80歳半ば、なお“超元氣”です。昔、時ならぬ時に？東京の知人に「伊藤さん（私）と伊藤さん（朗氏）とは何ういう関係ですか？」と訊かれて返答に窮した事がありました。“行儀も口も最悪”の私と朗氏の清廉イメージとが全く一致しなかったようです。ようやく、関係を“理解”させて以後、私の信用偏差値は一挙に3ランクほど上昇しました。後

曰、機会がありこの件を本人に話しました。「何で、東京でそんなに評判がエエの?」。その答えが面白かった。

「僕は自分の成績が大した事なかったので、成績の悪い人には優しい。わからん生徒には100点とるまで教えたからエエ」。ド迫力を感じました。黄金期

の山城にもこんな教師はいなかった?

弟・恒(ひさし)氏。残念ながら昨年春、鬼籍に入りました。黎明期の日本航空入社。欧州総支配人、日本航空開発副社長などの要職を歴任し、「ミスターJAL」の面目躍如、JALの海外基盤を固める活躍でした。完璧な英語力・稀なる社交の才、正にワールドワイドの人脈ネットワークには目を見張る思いがありました。ロンドン駐在中の自宅テニス・コートはご留学中の皇太子殿下が常連でした。現役引退後もインターナショナルな知見を請われとに角、明るくて忙しい人でした。三中時代、私は毎日一緒でした。親戚の自慢でご紹介したではありません

ん。キャリア型“三中エリート”の対極代表としてご紹介したまでです。兩名ともに、帝国大学とは無縁でした(同志社卒)。余談ながら、一族の帝大卒・博士は数名を数え、なにも珍しくありません、自慢ですがこれは。

しかし、親戚内一致して、朗・恒両兄弟が“一族・エース”の右総代です。

今の山城は・・・

ややトホホ

の感を免れない。正直に言いまして。「偏差値」とか「京大合格率」とかを言っているではありません(そんな情報のアクセスルートがありません。私自身が偉そうなことを云える義理でもありません)。要は、人間の幅とか大きさと可能性とか根性とか迫力とか。要するに、生きていく為に必要な“地・生命力(エネルギー)”“みたいなもの。今、身につけなければ、一生つけるチャンスがない。そう言う定規で測ってみて、チョット“もの足らんア”と慨嘆するのです。

無論、受験勉強はしっかりやっても

らわなくてはイカンのですが。

現役諸君に薦めたいことがあるんです。“三中・山城”の歴史や実績、特にOB、OGの先輩について、掘り出して、もっと知って欲しいのです。いはば、“母校の考古学”です。

母校考古学をやしましょう!

きっと何かを見つけてるでしょう。“宝”が見つかる筈です。三中・山城の“昔”には宝が一杯つまっています。そして、もし宝を掘り当てれば、それを“目標”にして将来、一歩でもその前へ進む覚悟を作って欲しい。学校の価値とは偏差値の高さや難関大学合格者の数ではない。もっと多様で豊かな人生を自力で拓く知恵を学び意思を磨く場所であります。俗っぽいキャリア・ルートに目標を絞ることなど馬鹿げている。そんな了見の狭い世界を目指すのならば、“学ぶ”意味を生徒も教師も学校も根本を間違えている。

山城よ、しっかりせい!

尾崎ブラザーズ、

第10回京都オープリ

演奏会に出演

4回 尾崎 恒

三月一日、京都テルサホールで開催された第10回記念京都グランド・オール・オープリ（カントリ・ミュージック・コンサート）に尾崎ブラザーズが出演しました。

このコンサートは平成12年、京都が日本のカントリ音楽発祥の地と言ったことで京都を中心に活躍しているアマチュアバンドが参加し、それ以後、若いミュージシャンも加えて、毎年2月第4日曜日に京都テルサホールでチャリティコンサートとして開催されてきました。演奏会の名称「グランド・オール・オープリ」は本場のテネシー州ナッシュビルで毎週末開催されるカントリ・ミュージック・

コンサートに因んで名付けられました。

今回の出演では笹部益生氏を迎えて兄の恭（山城2回）と恒（山城4回）の3名でバンドを編成しました。

曲目はバンドのテーマソングでもある「Are you wash in the blood」、母が好きだった賛美歌「What a friend we have in Jesus」、ライオンズクラブでよく歌われる「We meet again」にヨーデルの入る「Columbus stockade blues」。ポピュラーで静かな曲を選びました。

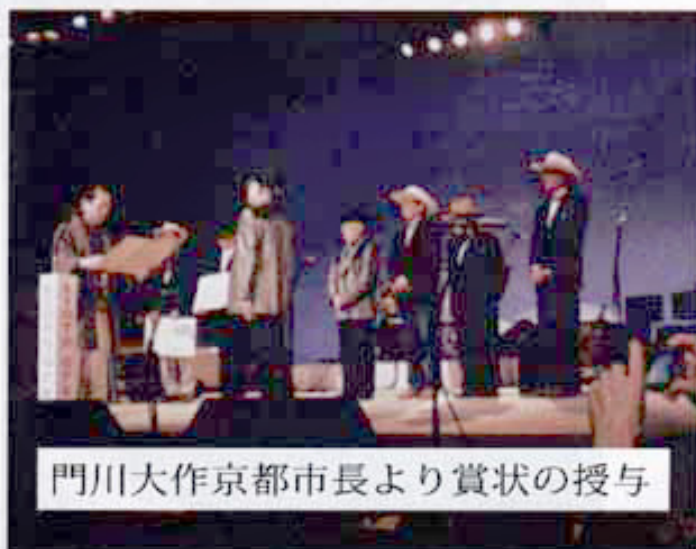
十周年を記念して門川大作京都市長より長年に亘る音楽活動に対して賞状を授与されました。この後、嬉しいことに森貞夫会長を始め同窓会員30名以上がレストランに集合して茶話会を開いていただき、楽しい会話の一時を持つことができました。

これまで幾度となく応援に駆けつけていただいた皆さんに紙面をかりて厚く御礼申し上げます。

尾崎ブラザーズの演奏



門川大作京都市長より賞状の授与



映画部OB会機関誌

「MONTAGE」

4回 福地 純一郎

山城高校映画部OB会の機関誌「MONTAGE」の事は創立百年記念誌に紹介させていただいた。あの時点では第6号（平成17年1月発行）だったものが、今年2月には第十号を刊行するに至った。十年前にはおよそ予想もなかったことである。A4版2段組み、平均30ページ前後のささやかな機関誌だが、OB達の映画にたいする情熱とこれにこめて熱心に原稿を送っていたべくして友達の応援の賜物と深く感謝している次第である。敢て「創刊10年記

念号」とは名付けなかったが、特集企画として「どちらが美人？

ジョーン・フォンテインvsエリザベス・テイラー」のアンケートを募集したところ、喧々譁々、多数の興味ある意見が集まった。結果はジョーン・フォンテインの勝ちとなったが、ファンの頭の中に残る嘗ての美人女優のイメージは、少しも色褪せることなく、映画

全盛期当時の大女優そのままであり、改めて当時のスター達の偉大さに思いを馳せた次第である。

「MONTAGE 10号」



の目次の一部を紹介すると「識って観る映画の愉しみ」、「ウエーとの再会」、「あの頃の涙・今何処？」、「黒澤明・没後10年」、「ほろ苦い思い出」、「映画的表现とは何か」、その他エッセイ多数で、特に「映画的表现：」は現在九回連載中の大論文となっている。また次回第11号では「昔の西陣界隈の芝居小屋・映画館について

の思い出」の特集を企画していて、面白い原稿が集まるのではないかと期待している。

現在、本誌は60部限定・非売品、編集・印刷・製本すべて手作りで、毎回映画部OBと誌友に配付すると残部ゼロという状態。今のところ、復刻や増刷の予定は全く無いので、この記事を読んでお申し越し頂いてもお渡し出来ないのは残念である。OB達の集いも平成11年12月に第1回を開催して以来隔年に欠かさず開催し、メンバーは京三中23年卒から山城9回（昭和32年卒）まで38名が登録されている。10回卒以降の卒業生に聞いてみると、映画部はそのあとも暫くは存在していたようである。この記事を読まれた10回卒以降の映画部OBが居られたら是非申し出でて欲しいものだ。

谷野校長先生が
退職の置きみやげに

命 名

谷野二郎校長先生は定年を迎えられ、三月三十一日を以て退職されました。退職に当たり置きみやげとして中庭を

『しゅうぶん 崇文の庭』

と命名されました。これは格技場の「尚武館」に対するものです。どちらも三中の校歌から採られました。



選手→監督→役員→団長

冬季国体出場50回

「好きなこと貫き誇りに」
 前原英彦さん
 前原さんは、昭和十一年生まれで、黒河に生まれました。黒河は、北緯50度の町で、冬は非常に寒い町です。前原さんは、黒河で育ち、黒河のソ連・満洲国境の町で、最も寒い時で零下50度以下に下がることが年に四、五回あり、平均でも朝は零下35度という寒さでした。



京スケート界の重鎮引退

前原英彦さん

「好きなこと貫き誇りに」

前原英彦さんは、昭和十一年生まれで、黒河に生まれました。黒河は、北緯50度の町で、冬は非常に寒い町です。前原さんは、黒河で育ち、黒河のソ連・満洲国境の町で、最も寒い時で零下50度以下に下がることが年に四、五回あり、平均でも朝は零下35度という寒さでした。

国体出場50回の回想記

5回 前原 英彦

「私とスケート」

今年は昭和八十四年です。昭和十六年十一月三日、校庭のリンクで生まれて初めてのスケートを滑った。

た。北緯50度、旧満洲の黒河省黒河街『黒河在満国民学校』に入学した年だった。黒河は北満のソ連・満洲国境の町。最も寒い時で零下50度以下に下がることが年に四、五回あり、平均でも朝は零下35度という寒さでした。

毎年十月末ごろになると、校庭に水をまき、一周一〇〇メートルのリンクを作った。冬季、体操の時間はスケート以外にすることがなかった。

リンク開きが十一月三日(明治節)、翌年四月二十九日(天長節)がリンクの終りで、一年の内六ヶ月余り、校庭のリンクでスケートを楽しむことができた。一週間に四日程度スケート靴を首か

らぶら下げて通学し、体操の時間や放課後に滑った。月に一回、記録会があり、リンクの端に十級、十段の五〇〇メートルタイムが書かれた看板があり、六十秒を切ると初段になることができた。目標は一日も早く初段を取得することであった。

在満国民学校五年生の八月、戦争に敗れ、二年後日本に引き揚げて来た。その後、冬になるとスケートが滑りたくてムズムズしたものだった。

氷を求めて昭和二十五年に六甲山までスケートに行ったが、滑ることが出来ず、二十六年には諏訪湖まで行ったこともあった。その年、戦後関西では初めての室内リンク「アサヒ・アリーナ」が大阪中之島にオープンした。山城高校の二年生だったが、週に二、三回、京都から大阪ま

で通い、スケートを楽しんだ。

二十七年、新聞に岡崎公園の勸業館に室内スケート場「キョウト・アリーナ」ができるという記事が掲載され、待望久しき地元スケート場のオープンを心待ちにした。

オープンの日は忘れもしない二十八年九月十一日。「キョウト・アリーナ」に入場するため、アリーナ東の平安神宮の鳥居までできた行列に並んだ思い出がある。それから毎日のように「キョウト・アリーナ」に通った。

進学した立命館大学でスケート部を作り、部員を募集。同年、早くも第25回全日本学生選手権大会、第二回関西学生選手権大会に長距離選手として出場した。二十九年一月、札幌円山リンクで開催された第九回国民体育大会に京都府選手団の一員と

して初参加させてもらった。

大学四年間の現役生活の間に全日本インカレ四回、全関西インカレ四回、第九、十一回国体といった大きな大会に連続出場できたことは、現在でも私の心の糧となっている。

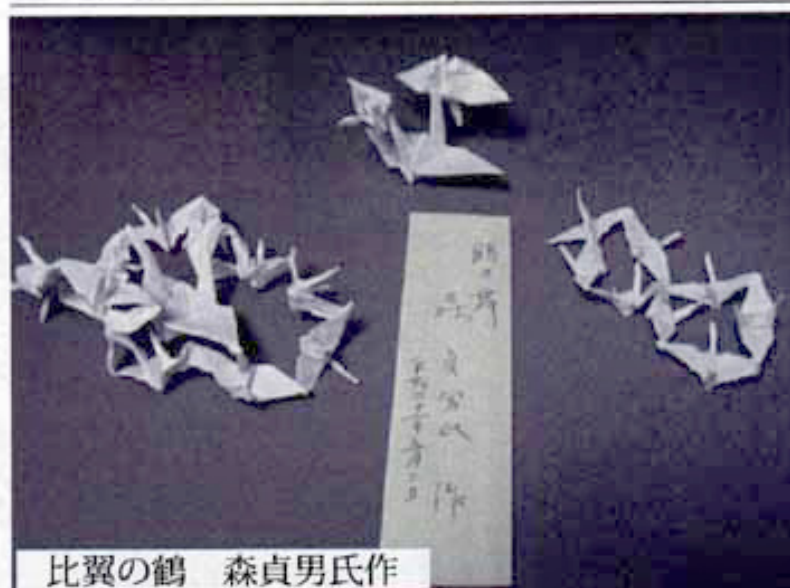
現役引退後、昭和三十三年から京都府スケート連盟理事に就任。昭和八十三年迄五十年間理事・理事長・副会長の要職をし、連盟の運営をすることができました。

なかでも国民体育大会の冬季大会は昭和二十九年、昨年平成二十年迄五十五年間に現役・監督・本部総務・総監督・副団長・団長の職で五十回出場出来ました。

この様に一府県より五十回出場出来た事は驚異的な記録で、日本では初めてであろうと自負していますと共に大きな勲章と確信しています。

す。

私のスケート人生は旧満洲育ちの極寒の地で最大の楽しみだった事だと思います。身体健康と家族の理解があればこそ、ここまで続けられたことだと感謝しています。



比翼の鶴 森貞男氏作

源氏夢幻

18回 今中友子



昨年は忙しい、でも嬉しい年でした。創作舞踊劇「源氏夢幻」の演出・振付・音楽構成を任せられ、秋の公演まで約一年間、その制作と練習指導に超多忙の日々を送る毎日でした。ご存知の方もいらっしゃると思いますが、「源氏夢幻」は源氏物語千年紀事業の中核イベントとして、文化庁の平成二十年度支援事業に認定され、国や京都府ほか多くの公的機関の後援を受け、様々な分野から一流の人材を集めて制作されたものです。

お陰様で、三回の公演とも満員盛況で、内容に対する評価も、沢山の方々からお褒めの言葉を頂戴し、私は大役を果たせたことにほっとしたものでした。

ところでそんな私ですから、小さい頃からバレエの練習ばかりで、山城高校時代も授業が終わればすぐ下校しなければならず、クラスメイトと放課後に楽しく談笑したり遊びに行ったりした記憶はありません。

今から思えば、もっと友人たちと付き合っておればよかったと後悔しています。学生時代の友人がいない寂しさを今更悔やんでも仕方ないなあと思っていたのです。

でも、そんな私に今回嬉しいハプニングが起こったのです。それは公演初日、受付に一つの花束が届きました。メッセージカードには、山城

高校十八期生とあり、K・T・Y・Iと四名のボーイフレンドの名前がありました。思わず目頭が熱くなりました。四人の皆さん、本当にありがとうございました。



トモコダンスアートカンパニー公演
日：2009年11月27、28日
場所：京都府民ホール・アルティ

「ブラスバンドで音楽三昧」

18回 平沼 義男



京都市立北野中学校から山城高校へ入学と同時に中学時代から吹奏楽部に入っていたこともあり、躊躇することなく入部しました。当時の時代背景や公立ということもあって、楽器類はオンボロばかり。記憶にある思い出は、真鍮楽器の錆びた匂いだけ！担当した楽器はアルトというブラスバンドではまるで目

立たないものでした。「いつか、本物のホルンを吹いてみたい」その夢は叶わないまま二年生に。

その頃、ひとつ上の先輩が、クラブ室へギターを持って来られ、「平沼君、フォークソングと言うのを知ってる？」と言いながら、数曲唄って下さった。感動！目からうろことはこのこと。メロディーもシンプルで、唄いまわしも演歌、歌謡曲のそれではなく、それは新鮮に感じたものでした。「これや！」

それからはクラブ活動の終了時間が、唯一の楽しみ。帰宅せずに空いた教室でフォークソングの練習にひたすら打ち込んでいました。当時、山城高校には定時制と呼ばれた夜間授業があり、彼らが登校してくるまで頑張っていました。彼らの中にも軽音楽をやっている人たちもいて、

自然発生的に仲良くなりました。その中には後の「ザタイガーズ」の加橋かつみさん、人見みのるさんもおられました。

ある日、先輩が「雑誌でバンドメンバーを募集している人がいるけど、一度会いに行こう」と。それが、北山修さん、加藤和彦との出会いだったのです。そして、バンド結成に。



「ザフォーククルセダーズ」のスタートでした。

アマチュア時代が三年続きました。延べにして130回位のステージ活動が続き、青春を謳歌していたと言っても過言ではないでしょう。



が、「うちと契約して欲しい」と京都にやって来ました。私はあつさり



ご存知の方も
あるかと思
いますが、解
散記念に自費
製作した「ハ

ンチ」と言うアルバムの中の「帰って来たヨッパライ」が、とんでもない大ヒットに！（東芝の発表では二八〇万枚）殆どのレコード会社

お断り。その世界には入りたくないのと、家業を継ぐため。それが理由でした。

現在、アマチュア仲間たちとバンドを結成して年に一度ほど、ステージに立っていますが、五割は自分たちで楽しんで、五割は聴いて下さるお客様に楽しんでいただくというポリシーでやっています。ちなみに、北山さん、加藤さんたちとは、現在でも仲良く交流させていただいています。私のバンド名は「ザ ボーククルセダーズ」。

一度楽しみに来て下さいませ。

上の写真は

右・川鯖市郎（山城26回）
中・門川京都市長



たわら屋店主（6回）久保功氏

某甲—天満宮から南へ少し下がった所（御前通）に古いおうどん屋さんがあるね。
某乙—知ってるよ。「たわらや」だろう。秀吉以来の四百年の老舗なんだ。そして、十五代目当主は山城高校6回の卒業生で野球部の先輩なんだぞ。
某甲—そいつは知らなかった。先輩なら、早速訪ねてみよう。

帰
つ
て
来
た
ヨ
ッ
バ
ラ
イ

おらは死んじまっただ
おらは死んじまっただ
おらは死んじまっただ 天国に行っただ
長い階段を 雲の階段を
おらは登っただ ふらふらと
おらはよたよたと 登り続けただ
やっと天国の門についただ
天国よいとこ一度はおいで
酒はうまいし
ねえちゃんはきれいだ
ワーワーワッワー

おらが死んだのは
酔っぱらい運転で
おらは死んじまっただ
おらは死んじまっただ
おらは死んじまっただ 天国に行っただ
だけど天国にゃ こわい神様が
酒を取り上げて いつもどなるんだ
(セリフ)「なあおまえ、天国ちゅうとこは
そんなに甘いもんやおまへんのや
もっとまじめにやれ」

天国よいとこ一度はおいで
酒はうまいし
ねえちゃんはきれいだ
ワーワーワッワー

毎日酒をおらは飲みつづけ
神様の事をおらはわすれただ
(セリフ)「なあおまえ、まだそんな事ばかり
やってんのでっか ほなら出てゆけ」

そんなわけで おらは追い出され
雲の階段を 降りて行っただ
長い階段を おらは降りただ
ちょっとふみはずして

おらの目がさめた 畑のど真中
おらは生きかえっただ
おらは生きかえっただ

会員からのたより

三三三七回 天野 光三

最新鋭機を作った三中生の日記

日本の敗色が濃くなり、三中の五・四・三年生七百五十人は愛知県の半田市の工場へ学徒勤労動員に出動することになった。そして終戦前年7月から8月の終戦までの1年以上を当時の海軍の最新鋭機の生産に従事した。昭和十九年七月五日十時二十七分京都発の直通列車で出立し、5時間半もかかって乙川駅に着いている。その日から七月末まで、ほぼ毎日続けた日記が私の手元に残っている。しかし八月に入ると急にその日記の日が飛ぶようになり、八月二十日でぶつとりと終わっているのは、おそらく厳しい労働と往復九キロの徒歩通勤の疲労のためかと思われる。

最新鋭機をつくる感激に燃え、必勝を信じて慣れない工具や工作機械で敢闘した純粋な中学生の心情と戦時下の世相を、ノートにたった十四ページのその日記から生々しく振り返ることができる。

よほどのひもじさのせいかその日記には、毎日の朝・昼・夕食の献立が細かく記録されている。朝食はご飯と味噌汁だけ、昼食と夕食もジャガイモ・玉ねぎ・南瓜・わかめ・昆布が幅を利かし、動物性の食材は、七月五日～二十四日の二十日間のうち、下記が漸く見付かった。(数字は回数) 昼食七回 (蛸1・豚1・小エビ3・

シジミ1・小魚1回)

夕食八回 (蛸2・小エビ3・小

魚1・カニ1・かまぼこ 1回)

蛋白質の貧しさが一目瞭然であり、十四～十六歳の伸び盛りの少年たちが早朝から夜遅くまでの重労働に空腹を抱えつつよく耐えられたも

のと思う。

* * *

京三三七会の数人の仲間が昭和四十六年十二月に「学徒勤労動員の記録・紅の血は燃ゆる」を読売新聞社から刊行した。その際に編集幹事の一人でありながら、出版後になってこの日記が見付かった。もしこの日記も使って編集できたら、ドキュメンタリーの迫力がもっと増したのに……と悔やんだが後の祭りになってしまった。

いわば「終電車」に乗り遅れたのだから、もう誰の関心を惹くこともなく、このノートは私の生涯とともに消えてしまおうだろう。

しかしあの苦しい戦時下の日々を生きた私達の世代から見ると、当時の一般的な中学生の厳しかった日常生活・意識や、時代的背景を伺い知る価値ある史料だと思う。

紐で縛って「ちりがみ交換」に出

す気にもならず、できればどこかで保存できないものか……と考える。どうすればよいか、誰か良い方法を教えてくれませんか。

5回 磯崎 清

家にくすぶっているのが苦手な性格で、毎日のように峠を下って街へ出掛ける。墓参り、美術館めぐり、ハイキングと京都まで足を伸ばす機会も多い。中でも楽しみは南座の歌舞伎見物。予約などせず、飛び込みでも結構上席がとれる。先日は、中村七之助、片岡愛之助、中村勘太郎、中村七之助らの「五月花形歌舞伎通し狂言小笠原騒動」を見てきた。九州小倉藩小笠原家の御家騒動もので、本水を使った演出もあって大満足の日であった。

5回 西谷 晴光

先日、会社時代以来ゴルフ仲間の

先輩から「孫たちにのこしてやりたい」と五人のグループで「戦争の思い出」について自分の体験を数枚程度で書き残そうとの話があり、先頃各人の体験書が出来上がりました。生まれはそれぞれ全国に散らばっており、先輩は川崎市生まれ、他は須磨明石、広島市、鹿児島市、満洲（奉天市）です。この話が出た時、私は京都生まれの京都育ちの人間として「困ったな」と思いました。それはアルバイトで新橋近くの設計会社でのお話。社員は東京と川崎市からの人達で空襲の話が良く出て、話の仲間に入れない私は、変人扱いにされた経験を思い出しました。また、卒業して最初の就職先広島市で何度か訪れた原爆資料館で感じた被災地の皆様がして肉親の方々が体験された惨状の写真の現実を見て強いショックを受け、何とも言えない後めたさを感じたのであります。そして上京以来何度も

感じている戦争被災の体験のない人間としての一種の卑下とも言えましょうか、齢七十五歳を数えて自分の過去に引け目を感じています。

このたび高林さんのご提案で「会員便り」の機会に五人仲間の体験談を見て考えさせられているところです。この会は、次回暑氣払いを兼ねて八月にまた集まりますが、文を引用するには著者の許可が要りますので今回は一フレーズだけを紹介させていただきます。

* * *

「医薬品がほとんどない状態での治療ではあったが、油・ジャガイモのすり汁が火傷に効くと聞き、塗布して治療にあたった。周りに多くの被災者がおられた。日を追うごとに死者が増えていったが、被災を受けてから五日、十日過ぎたから父はもう大丈夫だろう、十五日・二十日も過ぎて安心して

いたところ、二十六日に容態が急変し、私たちの疎開先へ父危篤の報が連絡不十分の状態夕方六時過ぎに届いた」

* * *

以上、一部分を紹介させて頂きましたが、京都に生まれた私の人生は、本当にラッキーと神に感謝の念を禁じ得ません。

持つべき友

5回 野村 藤雄

リタイアして以来、自分にも多少文系の能力を試さんと、手近な生涯学習センターやら何とかの会やらに入門し、気がついたら十指に余る部門に係っていた。(具体的には、俳句、短歌、詩、絵画、……鑑賞など) しかも数年以上も続けると年長者ということでは代表者を務める会もある始末である。これだけ有ると、年中宿題に追われ、休む間がない、幸い学生気分である。

当然作品の質が落ちるのは仕方が無いが自ら選んだ事と諦めている。それで気が付いたことは、自分の感性は高校時代のままである事である。これで結構まかり通っているが、当時、白紙状態の俺の頭に映画、文学、音楽を吹き込んで呉れたのは友人達であり、彼らの感性のレベルは高校生離れていた。円熟した一流のものであったからであると思う。感謝しなければならぬ。

5回 福井 朝子

私は浄土真宗本願寺派のお寺に嫁ぎ、何時の間にか五十二年の歳月が過ぎました。近くに同窓生の方々が二人ほど在住され、なつかしい青春時代を想い出しております。又、東海山城二八会と称して二年ごとまたは連年に東海三県の旧友と会合を名古屋で持っております。七、八人は集まりますが、すでに故人となられ

た方もあります。今年は後期高齢者の仲間入りに当たり、頭も体にもぶくなつて居りますが、これからも命ある限りは同窓生の輪を大きくひろげて行きたいものです。

10回 洞本 昌男

卒業後五十余年、昨年度の全学年同窓会には120余名の会合となりました。一部を除き、殆どがリタイヤーで、ある人はコーラスに、そしてテニスに、また碁にと出席された方は報告されておりました。毎月第三水曜日六時より山酔会(サンスイ会)と称して京都タワーB1の居酒屋味楽座(3719417)で出席予告なしで一杯やっています。井上隆夫先生は毎回の出席です。どうぞご参加下さい。(2、3,000円程度)

又お昼の会合もあると聞いておりますので詳しくはお尋ね下さい。(343-8216)

11回 伊藤 信子

「山城サロンのこと」

山城第十一回卒業生の「学年同窓会」以外の集まりに「山城サロン」と云う名の行事があり、十年以上続けています。今年上半年期には「講演会」を二回、「歩こう会」を二回、「ゴルフコンペ」を一回、「呑み会」は毎月十四日に開催しました。どの行事も講師・引率者・幹事は同期生の中から誰かが担当し、参加者は二〇〇名超えと、頻繁に開催するのに大勢の参加です。下半期の行事は講演会・一泊旅行・観月会・一泊ゴルフと呑み会がすでに決まっています。参加の方がまるで五十年昔に戻ったように若やいで元気になり、理由も無くホッとする嬉しい集まりのことです。

これからもっと永く続けたいと願って案内状発送係を担当していますが、これが私の元気の秘訣かと

思っています。

12回 吉田 茂

「旅するラジオが山城に」

私はラジオ人間である。特にNHKのファンで運転中にもNHKラジオをよく聞く。家では早朝から「健康ライフ」を聞いている。

四月のある日のこと。来週の「旅するラジオ」は京都からで、その第一目に山城高校を訪れるという放送が流れてきた。

それは、四月二十七日（月）で、山城高校の大先輩・阪神タイガース元監督の吉田義男氏がゲスト出演されるという。

正午のニュースの後、「昼の憩い」に次いで「ここは故郷・旅するラジオ」という番組でラジオカーが全国を巡回している。

当日、心踊る思いでスイッチを入れた。吉田元監督が母校での思い出

話をされた。旧校舎の様子や野球部の練習風景、他のクラブとかち合わないように早朝や夕方練習で工夫したこと、ボールの綻びを家で縫うなど球具を大切にしたことや、野球に対する取組む姿勢を熱く語られた。

昔の校舎やグラウンドが目には浮かび懐かしく聞くことが出来、高校生時代の思い出が蘇った。吉田先輩は、後輩の野球部員に対して、再び甲子園出場出来るように頑張つて欲しいと温かいエールを送られた。甲子園球場に山城高校の校歌が流れる日が来ればいいな、と心から共感した。

14回 瞰 洋子（旧五島）

お葉書、嬉しく拝読、懐かしく思いました。平成二十一年八月十一日午前五時、震度六弱の地震、こちらに嫁いで初めて強く感じた地震だけにびっくり！「いよいよ来たか、これで私も最期」と逆に落ち着いて

じつとしておりましたが、間もなく
終わり、ホッ！ 本棚の本が墮ちた
程度、何一つ程度被害もありません
でした。お陰様で。

京都より当地に参りまして四十一年
余、興津側を上り山間の小さな山寺。
当初は西に向いて寂しく、ポロリポロ
リの涙でしたが、精進努力が実り？
……昔の姿の無い寺に改修。今は新命
住職を迎え、お掃除、草取りに励む毎
日です。家族八人、賑やかに暮らして
おります。夏は各地の子供達二百三日
の修養会を催し、毎年百二十余人の面
倒を見えています。（四十年続いております）。何時の日か皆さまとお目にかかれ
る事を楽しみに。合掌。

17回 澤田 安之

第62回京都府高等学校陸上競技選
手権大会が六月五日～七日に西京極
陸上競技場を会場に開催され、母校
の応援、観戦に出掛けた。新型イン

フルエンザの感染防止のため、京都
市内のほとんどの学校は、一週間の
休校措置がとられ、十分な活動、練
習ができないままの出場であったの
では、と危惧しながら会場へと足を
運んだ。そんな小生の危惧など全く
無用であった。トラック、フィール
ドとも、近畿へ、全国へと、夢を一
歩一歩たぐり寄せるために、懸命に
力を振り絞る高校生の熱気に溢れて
いた。長い間、選手として、また部
活動の顧問として、この西京極に毎
年のように足を運んでいたが、観客
席での応援、観戦の経験は非常に少
ない。特に、直接の当事者でない立
場で競技を観察すると、選手の動き
や表情、姿勢など興味深いものを多
く見ることができた。下肢の動きが

選手のスピードとスピードの維持に
大きな役割を果たしていることが改
めて確認できた。こうした動きは、「天
性」と言われている事が多いが、「人

間が競技で勝つ」という目標のため
の「動き」であり、やはり熱心な指
導と選手の努力の積み重ねが磨きを
かけているように見受けられた。

スタンドでの観戦は各学校の選
手、保護者、OB・OGの生の姿を
見ることができ、こちらの方も興味
深かった。学校のシンボルカラーと
学校名が入った揃いのキャップを被
り、熱心に応援を繰り広げておられ
る保護者の一団がおられた。どの保
護者も、毎日毎日、早朝から弁当を
準備し、選手を送り出し、日々のご
苦労は大変なものであると思われ
る。甲子園の応援のように統一がと
れたものではないが、思い思いの言
葉を発し、懸命に声援を送り、選手
がゴールに近づくに従って、立ち上
がって大きな声とともに拍手で激励
と賞賛を送っておられた。また、こ
れと対照的に、選手の走る方向を
じつと目で追って、静かに応援され

ている、御両親と思われる姿も印象的であった。一つでも順位を上げたり、〇・一秒でもタイムを縮めようというより、元気に一所懸命に陸上競技に取り組む我が子を、暖かく見守っておられると言う感じで、好感が持てた。

スポーツは、力と技を競い、優劣を決めるすばらしい文化であるが、同時に、勝者は常に一人（二チーム）であり、負けた者を大量に生むという厳しい側面も持っている。それ故、勝者も敗者も結果を謙虚に受け止める姿勢、日常の不断の努力の過程、これが人格の形成に重要だと力説されている。スポーツが持っている重要な価値を認識し、高校生が学校の勉強とスポーツ活動に命がけで励み、人としての生き方、在り方を自ら学び、つかんで欲しいものである。

18回 池内 一博

男女共同参画社会推進

オッサンのお料理教室

二年ほど前、定年退職を迎えた中学からの友人と酒を飲んだ。彼曰く「暇やから、男の料理に行こうと思う」と。「わざわざ行くより、俺らで料理教室を開こう」酔いに任せて、いつい言ってしまった。

結果、知人の記者に頼み新聞記事で参加を呼びかけたが、応募は三名。「えらい少ないなあ」。記事内容を見ると、『退職した団塊世代の男性、家にひきこもらず新たな出会いを料理教室で』と書いてある。「私はひきこもりであると自主申告する人はいひんやろ。少ないわけや」。

そんなことがあって、この八月で八回目の開催。今ではコンスタントに十数名が参加する。会場はウイングス京都、男女共同参画を謳う館だ。目的利用団体にも登録された。前回には女子大生四名が見学参加。

「料理はオッサンたちの出会いのツール。教室は情報交換の場」をコンセプトに、これからも続けようと思う。因みに前回の献立は、ピッツアパイ、ライスグラタン、スパゲッティ・ボンゴレ、スパゲッティ・バジリコ、シホンケーキ。メニューだけは一人前だが、はたしてそのお味の方は？

18回 川人 忠孝

東京生活42年。相変わらず映像の仕事に力を注ぐ毎日です。今はテレビコマースシャルを中心に楽しく過ごしています。

18回 深井 俊明

早いもので、卒業して40年以上経過しました。皆様お元気でしょうか。今年一月にリタイアしまして、晴耕雨読の生活をしています。仕事の関係で過去同窓会には一度も出席して

おりません。皆々様のご健康をお祈りします。

19回 奥田 善広

(同窓会には出かけないものだが、長年の付き合いのI先輩が編集委員ということなので、義理と人情で一筆啓上)

この二月で定年退職になり、部署の皆さんからお祝いを頂いた。ワインを所望するケースが多いのだが、そんなに呑めない身なので、ちびちびやって品質劣化するに決まっている。そこで、そうでなければ手元に置くこともないであろう1300頁超の分厚い本(但し字は大きい)をお願いした。「百年小説」(ポプラ社)。明治以降の短編小説50編が載せられている。この重い本と一般販売されていないこれまた重い特製ウイスキー、そして恥ずかしながら花を持って帰宅して、やおら開いてみると、

悲しいことに一割も読んでいない。

だが待てよ、まだ読んでいないものがこんなにあるということは、この先これだけの楽しみが待っていてくれるということ、そう逆に嬉しいことなんだ。そう思いなおし、読み初めている。ゆつくりと。

同級の方が一年の時に、酒瓶に酒が一合残っているとき、一合もあると思う人と一合しかないと思う人があると言っていたが、ウーン、私も「一合もある派」になりたいと感じている日々です。

20回 桶谷 良

還暦を迎えます。

いよいよ本年度還暦を迎えなければならぬ「こって牛」「五寅」の第二十回卒業生。同時に退職となる人も多いでしょう。百年に一度の不況と言われている経済状況下で既にリストラを経験しているものも少な

くないと聞きます。道端で会えば、名前は忘れても、顔で何となく憶えている。老いても昔の思い出や懐かしさが言葉や仕草に表れ、ついには「君は誰々」とひよいと思ひ出させる。話が弾むと終には年金や老後の生活の話に発展してしまい、人を羨むことばかりに終始。次に会う時は愚痴を言わずに会いたいもの。

団塊の世代の最後を飾るにふさわしい若き老人でいたい。寄る年波には勝てないけれど裏腹に体と心と頭に鞭打って、次世代を担う子どもたち及び孫達のために頑張っています。

38回 林 美紀(旧姓・石田)

私は、女子バレーボール部でした。すぐ横のコートで練習していたのは、男子バレーボール部でした。互いに汗を流して一生懸命練習していました。同じバレーボール部だったせいなのかよくわからないけど、仲間つ

て気持ちがいっぱいになりました。

卒業して23年になりますが、相変わらず女バレ・男バレ一緒にあって、年間少なくとも2回は必ず集合しています。時には、後輩も一緒に、40人くらいの人数の時もあります。顔を合わすといつも高校生の時に戻ったみたいに仲良くワイワイ騒いでいます。ずっとおつき合いをしていて、目出度く結婚して夫婦になつて二人もいます。私にとってバレエボール部の仲間は、いつまでも大切な友達です。

51回 坪野優太郎

はじめて投稿させていただきま
す。早いもので今年で山城高校を卒業して10年が経ちました。

私は大学を卒業後、祖父の弁護士事務所です。事務員として法律実務に携わり、裁判所西側にある事務所です。司法書士として日々忙しく働いています。

法律家としてはまだまだ走り始めたばかりの新米ですが、この日本に百年に一度の不況の嵐が吹きすさぶなかで、社会的経済的弱者や司法サービスが必要とする人達に、一法律家としていかに貢献できるかを日々考えながら、業務に励んでいます。

恥ずかしながら、私が山城高校陸上部に同窓会なるものが存在するのを知ったのは、最近のことでした。興味本位で、月に行われた陸友会の総会に初めて顔を出したことがきっかけで、私の父親世代がそれ以上の世代の先輩OBの方々にお会いし、いろいろと話をお聞きするなかで、山城高校陸上部がいに歴史と伝統あるクラブであったかを思い知った瞬間でした。

ところで、つい先日、8月15日に私が幹事となって、50回、51回、52回のいわゆる「世紀末卒業組」の

陸上部OBを集めて同窓会を行いました。参加人数は総勢22名で、大阪から、名古屋から、福井から、東京からみんな京都に結集し盛況を極めました。実は高校卒業以来、今回が初めての同窓会だったので、顔を合わせると皆まるで高校時代に戻ったかのような感覚で、青春時代を夜遅くまで語り合いました。

卒業後行方を知れない同窓たちを、人づてに探し出しながら、なんとか連絡を取り付け名簿を作り、同窓会まで無事漕ぎ着け、大役を果たせたと自己満足に浸っていた私ですが、大変ながらもこのような同窓会を完遂できて本当に良かったと思います。

それと同時に、これからは同窓の横のつながりだけでなく、年の離れた先輩OBの方々との縦のつながりも大事にし、山城高校陸上部の同窓生の輪を広げていければよいなと

感じるのでありました。

61回 神内 隆年

京都三中・山城高校陸上競技部のOB会の皆さま、七月二十六日、私のために盛大な祝賀会と激励会を催して頂き、大変ありがとうございました。お陰様で山城陸上競技部員としてはじめて全国インターハイ（熊谷）の三千メートル障害で、三位に入賞することができました。

私は高校一年までサッカー部に入部していました。陸上部入部当初はチームプレーから故人プレーに変わったことや、長い距離を走れるかなど不安を持っていました。結果としては、二年目にインターハイで三位に入賞できました。野々口先生から「お前ならインターハイに行ける」と言われ、最初は半信半疑でいましたが陸上部に入って初めて表彰台に立った時、先生の言葉にかけてみた

ら本に行けるのではないかと思うようになりました。

インターハイで走っている時、今まで一緒に練習してきた仲間に賞状とメダルを見せてやりたいと思っていました。しかし、ゴールした時、三位という結果に嬉しさのある反面、悔しさもありました。しかし、後輩たちが「感動しました。」と言ってくれ、陸上をやっていて良かったと思えました。ここまで来れたのもチームメイ
ト、野々口先生、両親、学校の友達の支えがあったからだと思います。

大学では、高校で果たせなかった日本一になり、応援してくれている人たちのためにも頑張りたいと思います。

インターハイの実績を認めてもらい、私は早稲田大学よりスポーツ推薦を頂きました。早稲田大学競走部は、今年オリピック選手を輩出しています。偉大な先輩を沢山輩出している大学で、密度

のある練習が出来ると思います。また、私は早稲田大学のスポーツ科学部に入学する予定です。スポーツを科学的に解析し、ケニアを中々とするアフリカ勢にも立ち向かえられるようなスポーツスキルを学んでいきたいと思っています。

今後は、じぶんの課題である気持ちの弱さを克服し、高校時代に果たせなかった日本一になり、そして憧れの箱根駅伝に出場し、優勝メンバーの一員になりたいと思います。さらに、オリンピックや世界陸上といった世界大会でも、日本人として世界に通用する選手になりたいという抱負を持っています。

私の祖父も、三中時代の第三十回卒業生で今は天国にいますが、先輩として応援してくれていると思います。最後になりましたが、京三中・山城高校陸上部OBの方々の暖かい応援と御指導の程、今後ともよろしくお願いします。

◆第 20 回山城高校 21 世紀塾（平成 21 年 7 月 13 日）◆

講師紹介：昭和 55 年山城高校卒業 平成 11 年京都大学大学院医学
研究科博士課程終了 医学博士。
現職：京都大学大学院医学研究科 特任講師

（講演要旨） あきらめない事の迫力

山城 32 回 笠原 正登（京大・医）

「もうやめた！」「これは面白くない、続けても無意味！」「きれた！」君たちの周りでこんな事を言っている人はいませんか？ それと君自身？皆さんはどう思いますか？

「もう止めた人」や「切れた人」は、その後どうなるのでしょうか？もうやめたり、きれたりしないのでしょうか？

私の知る限りでは、このような事を言う人は、その後も同じ事を言います。これは、私も含めてです。

仕事を転々とする人は、必ず理由を見つけて辞めます。まるで自分を言い聞かせるかのように、まことしやかに見事な理由がつきます。数少ない成功者以外の多くの人達は、本人たちの気に要らない結末に向かって適当に収まって行きます。

それでは大学に合格するにはどうすれば良いのでしょうか？

答は簡単です。教科書に書いてある事を全部理解して覚えればよいのです。何年かかってやるか、だけの問題です。なぜかと言えば、大学入試には「創作する能力」は必要ないからです。教科書以外から出題されないからです。理解して覚えるだけなら全員が合格可能なのです。

皆さんも理解できると思いますが、健康な人であれば、マラソンですら練習し続ければ必ず完走できるようになります。たとえば、いま 100 メートル走るだけでフウフウ言う人でも同じです。

「自分の頭は悪いから、覚えられない」と言う人は多いですが、本当にそう思いますか？ 頭が悪いというよりは、「もうやめた」「きれた」だけのような気がしませんか？ この人が、やめずに粘り強くやり続けたらどうなりますか？

皆さんは、大学受験に関わらず、簡単に「もうやめた」「きれた」という人に大切な仕事を任せられますか？ 大切な人生をあずけられますか？

今回のテーマでは、あきらめない事、あきらめないための精神力、その上に成り立つ成功について一緒に考えたいと思います。

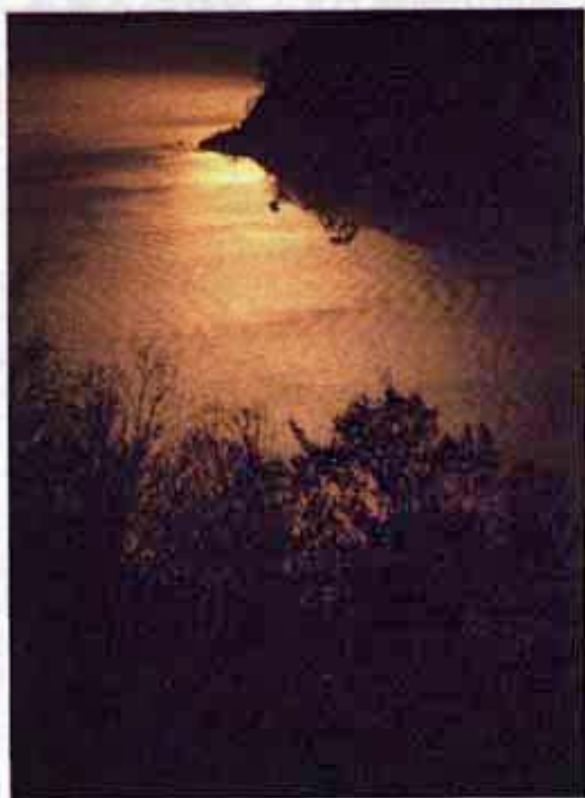


コンテスト

紙
上
フ
ォ
ト



長谷川栄一 (三中 36)





紙
上
フ
ォ
ト

コ
ン
テ
ス
ト

西川 秀信 (三中 36)

各期（同窓会）の予定

◆八月十八日

三五会の食事会（於・京新山）

◆九月十一日

山城五回お昼の会（於・「西陣魚新」）十一月十一日のいい月いい日の会の幹事会として開催します。

◆十月十八日

八八会（於・西陣魚新）

◆十一月十一日

山城五回 いい月いい日の会

◆十一月二十九日

三中三八会年次総会（於・西陣魚新）

各期同窓会などの報告

◆四月十日（金）

双陵クラブ第二回総会（於、ホテル・ルビノ京都堀川）



申し合わせにより今年は36回生が運営を担当した。全参加者は五十九名で、（懇親会のみ参加は五十七名）去年の第一回に比べて参加が減ったのは残念だったが、大いに盛り上がった。次回開催担当の37回藤田稔夫氏から言葉があり、閉会。

◆四月二十五日

山五会総会（山城高校第5期Ⅱ昭和28年3月卒業）を開きました

青雲の志で入学から千支一巡60年（Ⅱ後期高齢者突入年齢）を記念し、痺れるような青春を思い出すため、母校を借りて4月25日15時から開催しました。

学校側の大歓迎とご支援のお陰で、視聴覚教室に約70名が集まり、

何と我々の入学時には生まれてな
かったと話し始められた、北澤校長
先生の歓迎挨拶でスタート。
同期生がプロデュースしている創
作「シンセサイザー」による源氏物語
コンサートに聞き入り、高齢者に
重要な「成年後見制度」の解説を内
藤NPO代表にして頂きました。

折角の母校開催なので、当時を偲び、昭和25年入学から昭和28年卒業までの学校行事の数々…野球部が甲子園夏の大会2回出場、バスケットボール部やサッカー部の国体等での大活躍などの記録と、当時の世相・流行歌・名画などなど…懐かしい思い出に浸れた2時間でした。

当日は春の嵐予想だったため、

まれるとは思いませんでした……年齢不相応な「飲み放題宴会」のおそまつ。

合唱団でトップテナーだったと言
う「山田喜之さん」のアカペラ校歌
で、次回総会での再会を誓いました。

(報告者：田崎 央)

◆四月二十六日

京都テルサホールで第60回ダイ
ムコンサートが開催され、平沼義男
さん(山城18回卒)が久しぶりにダ



イムの
ステー
ジで熱
唱さ
れまし
た。

今回は12のグループが出演し、平
沼さんのグループ、ザボーケクルセ
ダーズの出演はトリでした。司会の
川鯖市郎さんは山城高26回卒です。

◆五月二日

京三中・山城高同窓会理事総会
(於・タワーホテル) 出席61名、会
計報告(別掲)・人事承認など。



◆五月七日

麓々会例会(於・ニューアサヒ)

◆五月十三日

八八会総会(於・ザ・ガーデン・
オリエンタル)参加十八名。北海道
や東京からも参加があり、賑わった。
一人浅野氏は急患の診察のため遅刻
された。他にもこの高齢で現役のお
医者(山内利夫氏)が元
気で活躍しておられるのは驚きであ
る。会場になった「東山艸堂」は故
竹内栖鳳の旧居であったが、今は
ガーデンオリエンタルとして結婚式
などによく使われているイタリヤ料
理の老舗である。ここが会場になっ
たわけは、会員中の伊藤朗氏が栖鳳
の孫にあたり、その縁故で斡旋して
貰ったのである。



会場は栖鳳が画業に励んだアトリエ（往時のまま保存）で、伊藤氏は子供の頃よく遊びに訪れたという。八八会の秋の会は「西陣魚新」でおこなう予定。



◆五月二十四日

山城第12回（昭和35年卒業）の同窓会が5月24日、京都タワーホテルでありました。大体2年に一度、15回目です。

物故者に黙祷を捧げたあと、今回の世話人代表、加藤厚夫さんが「我々の時代は、皇太子（現天皇）のご成婚の時であり、歌謡曲は水原ひろ

しの黒い花びらがヒット、散髪代が150円で「など在校当時を振り返りながら挨拶しました。

出席は恩師の井上隆夫先生と10組500人の卒業生のうち、58人でした。テーブルごとの歓談のあと、恒例になっている各組ごとに壇上での近況報告です。「夫婦で97歳の親を見ている」「また、勤めが始まった」「二日一生で毎日元気を心がけている」など、同窓生一人一人が思いを述べました。

宴は3時間余り、各組から1人の次期開催の幹事団を選んだあと、「双が丘に鐘なりて」の校歌を2番まで歌って閉幕しました。

次の開催は一年半後、卒業から50年、みんなが古希を迎える記念の同窓会になります。

◆六月十一日

山城陸友会幹部会例会（於・ミュンヘン）参加六名）

◆六月二十一日

(三中) 三五会総会

平成二十一年京三中・三五会総会は、六月二十一日(日)に新都ホテル桂の間で開催された。

出席者は昨年と同数の二十五名で、東は静岡、西は岡山からの参加者があり、中には三年ぶりの参加者もあった。

前回以降の物故者、山口克君、滝藤宏君のご冥福を祈り黙祷の後、本年幹事の今西修君が「最近の中国見聞」という題名で約十五分間の卓話を行ない、引き続き会食に入った。

会食始めの乾杯の音頭を誰にさせるか。今西幹事は、能勢隆弘君を指名した。(写真前列左端)

能勢君はガンで余命六ヶ月の宣告を受けたが、すでに一年以上経過している。彼の夫人の言によれば、主



(上段) (左) 能勢 隆弘 (右) 山口 克夫
(中段) 松村 吉田 宇田 松井 河辺 高橋 野原 山村 山田 山口 荻野 大島 奥 山本 藤本 毛利 四方 今西 久留 北 岩見 河津 上羽 能勢

人は三五会の皆さんと会うのを一番楽しみにしているとのこと。「死ぬまで元気で生きるぞ」という彼の乾杯の言葉に、逆に我々は彼から元気を貰ったような感激に打たれた。

和やかな会食は、「時間です」とホテルの係員から催促されるまでつづき、来月六月十三日に再会を約して解散した。

現時点で次の会合が決定。

「昼食会

八月十八日(火) 於・京新山

(文責 大島)

◆七月十二日

サッカー部OB会

◆七月二十四日

山城陸友会総会(於・ミュンヘン)今年度陸上競技部OB会(陸友会)の総会と江原君(山城41期)の祝賀会を兼ねて行われた。江原君は京都府体育協会功労賞を受賞したものである。平成十一年来、毎年多数の



優秀選手を育てて、国体や全国IHに送り込んだ功績による。

◆二月二十七日(金)

第六十一回卒業式。三百四十四名卒業。卒業生全員に「双ヶ丘」創刊号進呈。

◆二月二十七日

陸上競技部、卒業生を送る会(於、

「山城」)出席:卒業生、七名、OB・教職員四名。

◆三月十日、

「魚新の会」月例会。初参加二名。

◆三月十二日

雄飛会月例会(於、ミュンヘン)参加:九名。今日はなぜかとても盛

り上がりました。

◆三月十三日

谷野校長先生を送る会。(於、魚竹)

◆三月十九日

終業式

◆四月一日

新任校長北沢和夫氏着任

◆四月二日

洛西三中会、遠足(宇治方面)参加者八名

◆四月九日

山城高校入学式

◆四月二十五日

「山五会」第十一回総会(於、母校)

◆四月二十六日

第60回ダイムコンサートに第18回卒平沼義男氏出演(於、テルサ)司

会:川鯖市郎氏(山城26回卒)

◆五月二日

ザ ボーククルセダース ディナーコンサート

平沼義男(18期)

9月20日(日)午後6時半開演

(於・全日空ホテル「平安の間」)

お食事代 7,000円

(フルコース&フリーストック)

◆演奏内容

1970年代のアメリカフォークソング「サウンドオブサイレンス」で有名なサイモンとガーファングルの楽曲や日本のフォークソングを唄います。コーラスや様々な楽器の楽しさを思う存分味わって下さい。

◆予定曲数 約20曲

(連絡先 平沼義男

numa3@ares.eonet.ne.jp)



京三中・山城高同窓会年度理事総
会・会誌編集会議（於・タワーホテル）

◆5月10日 魚新の会例会

◆5月13日 三中34回八八会（於・

ザガーデンオリエンタル）参加17名。

◆5月13日 会誌編集会議（於・ミ
ンヘン）

◆5月24日 山城12回同窓会（於・

タワーホテル）

◆6月10日 魚新の会例会

◆6月24日 編集会議（於・楽庵）

◆7月6日 編集長、安居児童館へ

◆7月10日 魚新の会例会

◆7月15日 編集会議（於・楽庵）

◆8月10日 魚新の会例会

◆8月19日 編集会議（於・楽庵）

本部だより

◆五月二日理事総会が行われ、会計
報告・人事報告等が行われた。第11

回卒業部隆夫氏が副会長に就任され
た。

◆七月十三日 臨時役員会（放送部
に全国大会出場祝い金授与）

訃報

◆平成20年12月30日、第29回卒業松
原健次郎殿、逝去されました。

◆平成21年7月5日、山城第4回卒
業今大路茂氏逝去されました。

◆平成21年8月12日、山城第10回卒
業渡邊安治（芸名山城新伍）氏、逝
去されました。

寄付者芳名

（平成21年8月15日まで）

5 高林藤樹・18 伊藤禎彦・26 松村多美
男・5 寺田良子・37 天野光三・5 狐
野美代子



朱雀大路に今も聳える百年の老舗、勝馬薬局

某甲 千本中立売下ルに古い薬局
があるね。

某乙 知ってるよ。「勝馬薬局」
だろう。三中創立と同年の百年も
続いた老舗なんだ。そして、四代
目当主の令弟は山城19回の卒業生
で柔道部の先輩なんだぞ。さらに
父君は三中、令姉も山城の先輩だ。
某甲 そいつは知らなかった。千
本界限はまさに山城の古巣だね。

平成 20 年度 京三中・山城高同窓会 会計報告

平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日 (単位 円)

収入金額 5,855,412

支出金額 745,164

差引残高 5,110,248 (平成 21 年度へ繰越)

収入の部

項目	金額	明細
繰越金	4,688,683	前年度から繰越
入会金	1,038,000	平成 20 年度卒業生入会金 346 名分
雑収入	128,729	記念誌代金、預金利息
合 計	5,855,412	

支出の部

項目	金額	明細
同窓会活動推進費	110,000	部活動全国大会出場激励金、ホームページ管理費他
山城塾開催経費	52,700	2 回開催 講師交通費等
記念品費	214,914	平成 20 年度卒業記念品 卒業証書ホルダー
会議等経費	367,550	理事総会開催費他
合 計	745,164	

平成 20 年度 同窓会名簿編集会計報告書

収入金額 1,286,678

支出金額 0

差引残額 1,286,678 (平成 21 年度へ繰越)

収入の部

項目	金額	明細
繰越金	1,277,446	前年度から繰越
名簿代金	6,000	
雑収入	3,232	郵便貯金利息
合計	1,286,678	

支出の部

項目	金額	明細
—	0	
合 計	0	

会計報告・会計監査報告

上記の通り報告します。

平成 21 年 4 月 3 日 会計 今井 正治

会計 小嶋 悦治

上記会計を監査の結果、適切に処理されているものと認める認める。

平成 21 年 4 月 3 日

会計監査 押谷誠之助

会計監査 高見 潔

同窓会年度理事総覧

三 中		会 名	理 事
回	年		
29	S 13	双鳩会	
31	S 15		中西雄太郎・
32	S 16		江羅 寿夫・森田 久男
34	S 18	八八会	吉田 邦夫・森田 高明
35	S 19	三五会	大島 達也・藤本 泰雄
36	S 20	麓々会	森本 皓昭・西村 山治
37	S 20	三七会	一色 逸雄・
38	S 22	三八会	高林 藤樹・
39	S 23	さくら会	押谷誠一郎・若林 實
40	S 24	一九会	
山 城			
01	S 24		片岡 光泰・久下 英雄
02	S 25		森 貞男・井上 昌道
03	S 26		高見 潔・山中 英治
04	S 27	山四会	三中西久雄・福地純一郎
			神谷 治美
05	S 28	山五会	太田 泰三・山田 喜之
06	S 29	山城六会	和田 脩・
07	S 30	五目会	小島 和光
08	S 31	山八会	水谷 浩之
09	S 32	九思会	鵜飼 忠男・田中 勲
10	S 33	山酔会	洞本 昌男
11	S 34	11 回同窓会	坂田 憲男・渡部 隆夫
			伊藤 信子
12	S 35	12 回同窓会	小寺 啓介・吉田 茂
13	S 36		村端 豊資・
14	S 37	一四会	丹保 重雄・高橋誠一郎
15	S 38		山北 光一・山田 一道
16	S 39		小林 正隆
17	S 40		澤田 安之
18	S 41		伊藤 禎彦・木村 文子
19	S 42		中村美知子・
20	S 43	ニイニイ会	伊藤 令子
21	S 44		南 綾子
22	S 45		
23	S 46		
24	S 47		
25	S 48		
26	S 49		増川 稔晃・松村多美男
			松居 康正
27	S 50		豊島 順也・仁田一明
28	S 51		中村 哲也・

29	S 52
30	S 53
31	S 54
32	S 55
33	S 56
34	S 57
35	S 58
36	S 59
37	S 60
38	S 61
39	S 62
40	S 63
41	H 01
42	H 02
43	H 03
44	H 04
45	H 05
46	H 06
47	H 07
48	H 08
49	H 09
50	H 10
51	H 11
52	H 12
53	H 13
54	H 14
55	H 15
56	H 16
57	H 17
58	H 18
59	H 19
60	H 20
61	H 21

上田 雅和

慶田 真澄

坪野優太郎

八木 睦乃

カンパについて

◆会報は非売品ですので、立前は無償ですが、三万五千人の会員に無償で配るには財政事情が許しません。そこで会員のご芳情に訴えてカンパを募ることと致しました。カンパは寄付ですから金額の定めはありません。又、時期の定めもありません。同封の払込用紙にて郵便局より編集部（担当松村多美男）宛、お振り込み下さい。口座番号は

〇〇九三〇—九—三三七五三三

です。会計は常に公表し、「みんなのでつくる俺たちの会誌」をモットーに進めたいと考えています。

編集後記

◆創刊号は未熟な仕上がりがだったと反省していますが、第二号は如何でしょうか。忌憚のないご意見を頂きたいと思います。◆会というものが成立するための要件は①名簿②決算報告③機関紙であると聞きました。これを三要素というそうです。わが同窓会はまだ足りない物があります。この会誌を武器として皆さんの啓蒙を図り、同窓会の発展に寄与したいと思うばかりです。何卒お力添えをお願いします。（高林藤樹）◆ちよつとしたきっかけから同窓会の学年幹事をお引受けすることになりました。◆初めての会合。そこには、一人の気骨あふれる初老の紳士（編集長）がいらっしゃいました。孤立無援のなかで創刊号を発行された彼の会報にかける炎のような情熱に、おもわず私は桃太郎についていく犬やキジのように

「お伴させて下さい」と叫んでいました。◆会報は、ともすれば「横のつながり」だけが中心になりがちな同窓会を、「縦に積み重ねる」役目を果たす大切なツールになると考えます。みなさまのご協力で、長く続けていけたらと願っています。みなさまからの原稿の提供を切に願います。（伊藤慎彦）

京三中・山城高同窓会会誌

「双ヶ丘」第二号（非売品）

二〇〇九年八月二十七日 発行

発行人 会長 森 貞男

編集長 5回 高林 藤樹

次長 18回 伊藤 禎彦

会計 26回 松村多美男

幹事 19回 勝馬 登

幹事 19回 中村美知子

幹事 19回 平野 進

幹事 51回 坪野優太郎

事務局 京都府立山城高等学校内

電話〇七五—四六三—八二六一

（京都市北区大將軍坂田町二九）